

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成25年 3月31日現在

機関番号：27501
 研究種目：挑戦的萌芽研究
 研究期間：2011～2012
 課題番号：23660092
 研究課題名（和文） 現代社会の健康課題解決に資する新しい公衆衛生看護学の構築
 研究課題名（英文） DEVELOPMENT OF A NEW ACADEMIC FRAMEWORK ON PUBLIC HEALTH NURSING THAT CONTRIBUTES TO SOLVING THE CURRENT PUBLIC HEALTH PROBLEMS IN JAPAN
 研究代表者
 村嶋 幸代 (MURASHIMA SACHIYO)
 大分県立看護科学大学・看護学部・教授
 研究者番号：60123204

研究成果の概要（和文）：

新しい公衆衛生看護学の学問体系を、国際的な視点を踏まえて構築することを目的とした。諸外国の文献 19 本を検討し、保健師の活動目的、コアコンピテンシー、専門的コンピテンシー、領域（科目）から成る学問体系を作成した。社会的公正・サステナビリティの視点、また、リーダーシップ・専門的自律・教育力・国際性・IT の能力が包含された点が、現行の保健師教育に比して新しい点であると言える。

研究成果の概要（英文）：

The aim of this research is develop a new academic framework on public health nursing in Japan from an international perspective. Following the review of 19 foreign papers, we constructed the academic framework consisted of purpose of public health nursing, core competency and professional competency of public health nurses and competency-based subjects. The focus about social justice and sustainability, and the competency of leadership, professional autonomy, education, cultural diversity, and skill for informational technology are the new contents compared to existing education for public health nurses in Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
交付決定額	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：地域・老年看護学

キーワード：公衆衛生看護学

1. 研究開始当初の背景

公衆衛生看護は、「看護学、社会学、公衆衛生学による知識を用いて、集団の健康の増進と保護を図る活動」である。現代社会では、健康危機管理や生活習慣病、うつ・自殺、いじめ・虐待などの多様化・複雑化した健康課題への対応・予防が必要である。また、健康格差や未知の健康課題への対応など、公衆衛生看護の機能を一層発揮することが求められている。

また、公衆衛生の新しい潮流として、New Public Health やバンコク宣言の考え方があ

る。これは、保健医療、環境、政治的関与、社会・経済開発に関係する課題への取り組みを目指し、公共政策のアジェンダに「健康課題の解決」を入れることを重視している。公衆衛生看護学もこの影響を受け、発展しようとしている。

一方、保健師教育の立場からも、新しい公衆衛生看護学の構築が急務である。2010年10月に、厚生労働省の検討会で保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改定案が討議され、保健師教育のコア科目が「地域看護学」から「公衆衛生看護学」に変更された。将来

の社会の変化に対応できる質の高い保健師を教育するためにも、教授する学問としての公衆衛生看護学の構築を急ぐ必要がある。

日本の保健師活動には 90 年近い歴史がある。免許制度の創設も 1941 年と早く、保健師が自治体に広く採用され、技術が伝承されてきたという点で、日本ではその専門性を抽出しやすいという利点がある。一方、英国、スウェーデン、アイルランド等においても public health nurse が国家登録制度になっている。こうした中、2009 年の ICN (International Council of Nurses) では“public health nurse”に焦点をあてたシンポジウムが開催された。また、2012 年 8 月には、世界規模の保健師のネットワークを立ち上げたいという願いを込めて、ICN 事務局長を招き、英国・台湾等の関係者によるシンポジウムが日本看護協会の主催で開催されるなど、国際的にも重要性が意識され、基盤となる学問構築の重要性が認識されてきた。

このような機運を受け、本研究では、各国の公衆衛生看護活動の定義や教育内容と日本の公衆衛生看護の位置づけを明らかにすることにより、世界の中で日本の公衆衛生看護活動を発信することを目指し、まずは、海外の公衆衛生および公衆衛生看護の動向を整理した。

2. 研究の目的

日本で開拓されてきた保健師の専門性を中核に、これを海外の保健師活動と比較することにより、現代社会の健康課題解決に資する保健師活動の学問的基盤としての新しい公衆衛生看護学の学問体系を、国際的な視点を踏まえて構築することを目的とした。

3. 研究の方法

平成 23 年度は、日本、WHO、米国、英国、カナダの公衆衛生看護学・地域看護学および公衆衛生学の基礎教育および保健師の能力に関する海外文献 19 本を収集した。また、新しい公衆衛生の知識を学習するために、New Public Health に関する講演会を開催した。

平成 24 年度は、平成 23 年度に収集した海外文献を翻訳し、文献検討を行った。文献内の既存のコンピテンシーモデルの理解、日本での応用可能性を議論し、国際的な視点を入れた公衆衛生看護学の構築に向けて、質的に分析・統合を行った。

4. 研究成果

1) 各国の保健師・地域看護師の専門能力枠組み

いくつかの国々が保健師（パブリックヘルスナース）・地域看護師（コミュニティヘルスナース）の専門能力枠組みを示している。

ここでは、イギリス、カナダ、アメリカ、オーストラリアの枠組みを日本の者と比較した。

保健師の枠組みには、個人・家族、あるいは集団・地域の健康課題の明確化に向けたアセスメント能力に該当する能力が明示されている。またどの枠組みにも、人と人をつなぐ関係構築・協働に関する内容や、人と健康増進サービスあるいは文化的・民族的な特性をつなぐ内容が組み込まれているのが特徴的である。人への働きかけでは、個人・家族、集団・地域の健康増進や well-being に向けた実践能力、その基盤整備としては、政策や社会資源を開発する実践能力が各枠組みに示されている。さらに、専門職として社会に貢献するために欠かせない能力、すなわち活動を推進するリーダーシップ能力や、自らの質の向上と科学的根拠に基づいて責任ある活動および説明責任を果たす能力が、多くの枠組みに項目立てられているのも特徴的である。

これら各国の枠組みから、保健師の専門能力を俯瞰すると、保健師の専門能力として欠かせない内容を検討することを試みた。

2) New Public Health に関する講演会の開催

学問体系に、新しい公衆衛生 (New Public Health) の考え方を取り入れるため、公衆衛生学の専門家を講師に招き、New Public Health に関する講演会を開催した。

まず、New Public Health の背景および概念が紹介された。New Public Health は、歴史的には、「環境衛生→集団対応：予防接種→個別対応：治療・医学的介入→再び、社会・生活環境、公共政策の重視へ」と変遷をたどっている。さらに、New Public Health と人材開発に関して紹介された後、人材開発の重要性、人材育成の考え方として、「コンピテンシーに基づいた人材育成」が示された。

さらに、公衆衛生専門職に求められるコンピテンシー、各国の公衆衛生人材育成制度が示され、わが国の専門職の継続的な質の維持・向上方策の参考となる例として、特に、イギリスにおける公衆衛生専門家の養成システムが詳しく紹介された。

3) 公衆衛生看護学の学問体系の作成

まず、大枠として、学問的枠組みが明確だった米国 ASPH 発行の公衆衛生学大学院修士課程・博士課程のコンピテンシーモデルを主軸に置き、それに、日本の保健師活動を考慮しながら、米国、英国、カナダの Public Health Nurse/ Community Health Nurse のコンピテンシーから必要な要素を組み込んだ。

次に、内容の検討として、海外文献のレビューに加え、New Public Health に関する講演会の資料、従来から日本で必要不可欠な方法として実施されているスクリーニング機

能、それに危機管理を合わせて検討し、日本における公衆衛生看護学の学問体系を構築した。保健師の活動目的を中心に、保健師に求められるコアコンピテンシーおよび専門的コンピテンシーを配置した。これに対応して、コンピテンシーに基づく領域（科目）についても検討した。

その結果、公衆衛生看護学の学問体系として、保健師の活動目的、コアコンピテンシー、専門的コンピテンシー、領域（科目）を明らかにし得た。（下表）

表 公衆衛生看護学の学問体系

活動目的	コアコンピテンシー	専門的コンピテンシー	領域(科目)
・生存権の保障 ・人々のQOL・Well-beingの向上 ・社会的公正 ・サステナビリティ	・アドボカシー ・コミュニケーション ・アカウンタビリティ ・文化的能力 ・法制度の活用 ・専門職倫理 ・マネジメント ・リーダーシップ ・専門的自律 ・教育力 ・研究能力 ・国際性 ・ITの能力	・地域アセスメント ・健康課題の明確化 ・アウトリーチ ・危機管理 ・資源開発・管理 ・施策化 ・財務管理 ・調整・交渉能力 ・パートナーシップ ・協働 ・個人・家族へのケア ・保健指導力 ・エンパワメント ・グループ育成 ・ヘルスプロモーション ・ヘルスプロテクション	【基盤科目】 ・疫学 ・保健統計 ・健康政策論 ・環境保健論 ・社会行動学 【公衆衛生看護関連科目】 ・公衆衛生看護理論 ・公衆衛生看護診断学 ・公衆衛生看護管理論 ・公衆衛生看護対象論 ・公衆衛生看護実践学 ・公衆衛生看護研究論 ・公衆衛生看護教育学

保健師の活動目的では、社会的公正・サステナビリティが、コアコンピテンシーでは、リーダーシップ・専門的自律・教育力・国際性・ITの能力が、専門的コアコンピテンシーでは、ヘルスプロテクションが包含された。これは、現在保健師の教育内容として活用されている、「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」、「保健師助産師看護師国家試験出題基準」で、あまり強調されていない視点である。

本モデルの新しさは、高度専門職業人・管理者の養成、社会・生活環境や公共政策の重視、また、国際性・ITの能力の視点が包含されている点である。現代社会の健康課題解決に際して、社会・生活環境、国内外の専門的知識・技術を踏まえた保健活動の実施に資すると考えられる。

保健師養成の観点からは、指定規則に比して、保健師教育の基盤である「公衆衛生看護学」に「公衆衛生看護理論」、「公衆衛生看護診断学」、「環境保健論」を明記したこと、「公

衆衛生看護研究論」、「公衆衛生看護教育学」、「社会行動学」を追記したことが特徴である。

本研究においては、公衆衛生看護専門職のコンピテンシーと、それを醸成するための教育内容について抽出・整理したが、各々のコンピテンシー間の関連性を明らかにし、学問体系の構造を明示するまでには至らなかった。一方、大学院での保健師教育は徐々に拡大しており、公衆衛生看護学の学問的基盤を構築する必要性はますます高まっている。今後、この研究成果に加え、実践・教育・研究者による討議によって、学問体系が構造化され、それを踏まえた実践・教育が発展し、人々の健康と福祉の向上に寄与できることを期待している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計0件）

〔学会発表〕（計1件）

岩崎りほ, 有本梓, 多田敏子, 岸恵美子, 佐伯和子, 岡本玲子, 田口敦子, 永田智子, 村嶋幸代. 国内外の文献検討に基づく新しい公衆衛生看護学の学問体系の構築. 第1回日本公衆衛生看護学会学術集会, 2013年1月14日 首都大学東京.

〔図書〕（計0件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

ホームページ等 該当なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

村嶋 幸代 (MURASHIMA SACHIYO)

大分県立看護科学大学・看護学部・教授

研究者番号：60123204

(2) 研究分担者

(3) 連携研究者

岡本 玲子 (OKAMOTO REIKO)

岡山大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：60269850

多田 敏子 (TADA TOSHIKO)

徳島大学・大学院ヘルスバイオサイエンス

研究部・教授

研究者番号：30127857

佐伯 和子 (SAEKI KAZUKO)

北海道大学・大学院保健科学研究所・教授

研究者番号：20264541

岸 恵美子 (KISHI EMIKO)

帝京大学・医療技術学部・教授

研究者番号：80310217

永田 智子 (NAGATA SATOKO)

東京大学・大学院医学系研究科・准教授

研究者番号：80323616

(平成23→H24：研究分担者)

田口 敦子 (TAGUCHI ATSUKO)

東北大学・大学院医学系研究科・助教

研究者番号：70359636

有本 梓 (ARIMOTO AZUSA)

横浜市立大学・医学部看護学科・准教授

研究者番号：90451765

(4) 研究協力者

岩崎 りほ (IWASAKI RIHO)

東京大学・大学院医学系研究科博士課程・

大学院生